

# 樞密院會議筆記

大正九年八月十八日

正

- 外務省官制中改正件
- 内務省官制中改正件
- 大藏省官制中改正件
- 陸軍省官制中改正件
- 海軍省官制中改正件
- 司法省官制中改正件
- 文部省官省中改正件
- 農商務省官制中改正件
- 逓信省官制中改正件
- 外：總理大臣
- 外交及軍事：關スル報告

## 国立公文書館 利用上の注意

樞密院會議筆記及び同委員會議  
は、非公開の席上における発言を  
記録したものであります。したが  
って当該発言者の共同著作物と解  
されまますので、引用等発表に際し  
著作権法上の問題の生ずることの  
ないよう特に御配慮願います。

## 国立公文書館

分類

2 A

15-9

樞 D 452

配架番号

外務省官制中改正ノ件

内務省官制中改正ノ件

大蔵省官制中改正ノ件

陸軍省官制中改正ノ件

海軍省官制中改正ノ件

司法省官制中改正ノ件

文部省官制中改正ノ件

農商務省官制中改正ノ件

逓信省官制中改正ノ件

外ニ總理大臣

一 外交及軍事ニ關スル報告

樞密院會議筆記

大正九年八月十八日(水曜日)午前十時五分開議  
聖上臨御不被為在

出席員

清浦副議長

大臣

原 内閣總理大臣 五番

加藤海軍大臣 六番

内田外務大臣 七番

田中陸軍大臣 九番

山本農商務大臣 十番

床次内務大臣 十一番

中樞文部大臣 十二番

野田逋信大臣 十三番

顧問官

伊東顧問官 十六番

九鬼顧問官 二十番

金子顧問官 廿一番

末松顧問官 廿二番

南部顧問官 廿三番

濱尾顧問官 廿六番

穗積顧問官 廿八番

安廣顧問官 廿九番

黒木顧問官 卅一番

一木顧問官 卅二番

久保田顧問官 卅三番

平山顧問官 卅六番

石黒顧問官 卅七番

有松顧問官 卅八番

闕席負

山縣議長

皇族

裕仁親王

一番

貞愛親王

二番

載仁親王

三番

依仁親王

四番

大臣

高橋大藏大臣

八番

元田鐵道大臣

十四番

大木司法大臣

十五番

顧問官

樺山顧問官

十八番

細川顧問官

十九番

都筑顧問官

廿四番

三浦顧問官

廿五番

曾我顧問官

廿七番

岡部顧問官

三十番

富井顧問官

卅四番

井上顧問官

卅五番

委員

横田法制局長官

松村法制局參事官

以上各件ニ付

小橋内務次官

内務省官制中改正ノ件

田中農商務次官

農商務省官制中改正ノ件

兒玉陸軍歩兵少佐

陸軍省官制中改正ノ件

芳賀陸軍砲兵少佐

軍事ニ關スル報告ニ付

報告員

二上書記官長

書記官

入江書記官

村上書記官

議長(清浦)之ヨリ會議ヲ開ク

外務省官制中改正ノ件

内務省官制中改正ノ件

大藏省官制中改正ノ件

陸軍省官制中改正ノ件

海軍省官制中改正ノ件

司法省官制中改正ノ件

文部省官制中改正ノ件

農商務省官制中改正ノ件

逓信省官制中改正ノ件

以上九件ヲ一括シテ議題トス第一讀會ヲ開  
キ朗讀ヲ省略シ審査報告ヲ為サシム

報告負(三上) 謹テ審査スルニ本御諮詢案九件  
ノ要旨ハ左ノ諸點ニアリ

(一)鐵道省ヲ除ク他ノ九省ニ於テ參事官ノ定  
員各一人ヲ増加セムトス其ノ理由トシテ  
當局ノ説明スル所ニ依レハ先年勅任參事  
官ヲ廢シテ參政官、副參政官ヲ置キタル際  
此等九省ノ參事官各一人ヲ減員シタルカ  
故ニ今回參政官、副參政官ヲ廢止シテ勅任

參事官ヲ復活スルニ當リテハ此等九省ノ  
參事官各一人ヲ増員スルコト當然ノ措置  
ナリト言フ獨リ鐵道省ハ新設ノ省ニシテ  
當初ヨリ勅任參事官ノ定員ヲ加ヘ規定シ  
タルカ故ニ今回特ニ之ヲ増員スルノ必要  
ナキナリ

(二)社會政策ノ事務ヲ擔當スル内務省ノ機關  
ヲ充實セムトス即チ從來賑恤救濟ニ關ス  
ル事務ハ内務省官制ニ於テ内務省ノ管理  
ニ屬セシメ地方局ノ所掌トシ局内ノ一課



ヲシテ之ヲ管掌セシメタルモ近時社會ノ  
 風潮ニ考へ各般ノ社會政策ニ關スル事務  
 ヲ一層周密適切ニ遂行スルノ必要ヲ認メ  
 茲ニ賑恤救濟其ノ他廣ク社會事業ニ關ス  
 ル事務ヲ内務省ノ管理ニ屬セシムルコト  
 ヲ明定シ社會局ト稱スル一局ヲ新設シ社  
 會局ニ於テハ地方局所掌ノ社會事業ニ關  
 スル事務ヲ承継スルノ外各般ノ社會政策  
 ニ關スル事務ヲ管掌スルモノトシ此ノ事  
 務ヲ擔任セシムル為社會局長ノ外同局職

員トシテ專任書記官一人ヲ増員シ内務事  
 務官二人ヲ新置セムトス

(三) 勞働者保護等ニ關スル事務ヲ擔當スル農

商務省ノ職負ヲ増加セムトス蓋シ輒近勞  
 働問題勃興シ勞働者保護ニ關スル施設ニ  
 付テハ十分ノ考慮ヲ加ヘサルヘカラサル  
 カ故ニ茲ニ勞働保險其ノ他勞働者保護ニ  
 關スル事務ヲ農商務省ノ管理ニ屬セシム  
 ルコトヲ同省官制ニ明定シ其ノ事務ニ付  
 テハ特ニ一局ヲ置カス之ヲ工務局ノ所掌

トシ其ノ事務ヲ掌理セシムル為書記官一人ヲ増員シ工務局事務官二人ヲ新置セムトス

又農商務省商務局ニ配置シテ貿易調査ニ關スル事務ヲ掌ラシムル為書記官一人同工務局ニ配置シテ工業ニ關スル事務ヲ掌ラシムル為書記官一人ヲ増員セムトス

(四) 他ノ規程ノ改廢ノ結果之ニ伴ヒテ陸軍省官制及海軍省官制ヲ整理セムトス即チ此二省ニ於テハ軍機軍令ニ關スル事項ニハ

叅政官、副叅政官ヲシテ關與セシメサル旨ノ明條アリ此ノ條文ハ諫二官ヲ設置シタル際特ニ插入シタルモノナルカ故ニ今回叅政官、副叅政官ヲ廢止スルニ伴ヒ此ノ條文ヲ削除シ尚附表別表中此ノ二官ニ關スル文字ヲ削除シ又中央幼年學校本科ヲ廢止シ同豫科及地方幼年學校ヲ以テ幼年學校ト為シ砲兵工科學校ヲ工科學校ニ改メ新ニ工兵學校ヲ興シ又對馬警備隊司令部ヲ廢止シ又陸軍大臣ノ管理ノ下ニ省外ニ

航空局ヲ新設シタルニ付此等規程ノ改廢

ニ照應スル為陸軍省内局課ノ事務分掌ニ

關スル條項ヲ整理セムトス

按スルニ以上ノ諸點ハ一ハ他ノ規程ノ改廢

ニ基クモノ一ハ刺下ノ情勢ニ應セムトスル

ノ念ニシテ孰レモ別ニ支障ノ慮ヲ認メサル

カ故ニ此ノ九件ハ原案ノ儘可決セラレ然ル

ヘキモノト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

十六番(伊東) 各位閣下今回御諮詢ノ外務省官

制中改正ノ件外八件ニ付唯今書記官長ヨリ

審査ノ結果トシテ右御諮詢諸案ノ内容ニ付

テハ逐次其ノ要點ヲ縷述セラレ又其ノ起案

ノ趣旨ニ付テハ或ハ前來諸規程ノ改廢ニ胚

胎スルモノアリ或ハ刺下中外ノ情勢ニ順應

スルノ計畫ニ出ツルモノアリテ孰レモ機宜

ニ適スルノ措置トシテ原案ノ通り可決セラ

レ何等支障ノ慮ヲ認メストノ報告ヲ與ヘラ

レタリ

此ノ報告ニ對シテハ本官ハ全然所見ヲ同シ

クスルニ因リ各位閣下ノ驥尾ニ就キ全幅ノ  
 賛成ヲ表シ併セテ書記官長ノ酷暑中ニ拘ラ  
 ス審査ノ事ニ執掌セラレタル勞苦ニ對シ各  
 位閣下ト共ニ深大ナル謝意ヲ表セムト欲ス  
 此ノ賛意ヲ表スルト同時ニ此ノ御諮詢諸案  
 ニ付テハ樞密院ノ既往ニ係ル議事經過ノ事  
 蹟ヲ回顧シ前來ノ職權關係ヲ考量スルニ於  
 テ此際漠然雲煙過眼ニ付スヘカラサル一二  
 ノ要項アルコトヲ認ム仍テ茲ニ其ノ概要ヲ  
 略述シテ以テ各位閣下ノ御留意ヲ仰カムト

欲ス

第一 今回勅任参事官ヲ復活スルニ付参事  
 官ノ定員中ニ一人ヲ増員スルコトノ案ハ前  
 ニ小官等カ各省官制通則中改正ノ件鐵道省  
 官制文官任用令中改正ノ件等ノ諸案ニ付審  
 査委員ノ命ヲ辱クニテ審査ヲ盡シタル當時  
 各省参事官中一人ヲ勅任ト為スコトヲ得ト  
 云フノ議ヲ可決シタルニ胚胎スルモ審査ノ  
 當時ニ在リテハ其ノ勅任参事官復活ノ為ニ  
 更ニ増員ヲ為スノ必要ヲ認メタルニ非ス政

府當局ニ於テモ亦果シテ當初ヨリ其ノ必要ヲ認メタルナラムニハ何故ニ各省官制通則改正ノ案ヲ提出シタル當時此ノ定員増加ノ議ヲ提起セラレサリシ歟ノ問題ヲ生スルヲ免レサルモノナリ随テ今回勅任参事官復活ノ為一人ノ増員ヲ為スコトハ前ニ各省官制通則改正ノ自然ノ結果ニ非スシテ其ノ改正ヲ實行セムトスルニ臨ミ新ニ其ノ必要ヲ認ムルニ至リタルモノト謂フコト本院ニ於ケル議事經過ノ實跡ニ徴シテ遼確ノ事實ナル

コト明瞭ナリト思考ス乍去政府當局ニ於テ既ニ其ノ増員ノ必要ヲ認メテ樞密院へ御諮詢ヲ奏請セラレ本員等モ亦之ニ對シテ賛意ヲ表スル以上ハ素ヨリ右等ノ經緯ニ付屑々問難セムトスルノ意ニ非ス復タ敢テ政府當局ノ辯明ヲ煩サムトノ次第ニ非サルモ本員等前ニ審査委員ノ職務ニ當リタル關係上右等經過ノ事實ハ一應各位閣下ニ報告ニ置クヘキ義務アルモノト自信シ茲ニ記憶ノ顛末ヲ敘述シタル次第ナリ

第二 各省官制通則ノ改正ハ各位閣下御承知ノ通り必ス本院ニ御諮詢アルヘキモ各省官制其ノモノニ至リテハ御諮詢相成ラサルカ例ナリトス然ルニ前ニ各省官制通則改正案ナリ鐵道省官制ノ制定ナリ其ノ他文官任用令中改正等ノ諸案御諮詢アリタル節本負等審査委員ヨリ将来各省官制ノ改正モ樞密院ニ御諮詢アルヘキ様内閣ヨリ奏請セラルヘキコトノ希望ヲ提出シタル所之ニ對シ原内閣總理大臣閣下ハ其ノ席上ニ於テ快ク本

負等ノ希望ヲ容レラレ将来ニ於テハ局ノ設置又ハ改廢ナリ参事官書記官定負ノ増減ナリ其ノ他重要ナル各省官制中ノ改正ハ必ス御諮詢アルヘキ様奏請スヘシトノ言明ヲ與ヘラレタリ御存シノ通り今回御諮詢ノ件ハ概シテ從來ノ成例ニ依レハ本院ニ御諮詢アラセラレサル範圍ニ属スル事項ナルニ拘ラス今回改メテ此ノ御諮詢ヲ辱クスルニ至リタルハ是レ将来ノ事例ヲ創定セララルモノニシテ樞密院職權ノ沿革史上當ニ特筆大書

スヘキ關要頗ル重大ナルモノト認ム而シテ  
事ノ茲ニ到リタルハ畢竟原總理大臣閣下カ  
前日ノ約諾ヲ重ニセラレ御諮詢奏請ノ手續  
ヲ履行セラレタル結果ナルカ故ニ本負ハ當  
時ノ職務關係上更ニ右ノ顛末ヲ各位閣下ニ  
披露シ總理大臣閣下カ樞密院ニ向ヒテ現實  
セラレタル誠悃ニ對シテ各位閣下ト共ニ茲  
ニ敬意ヲ表明セムト欲ス

以上敘述シタル所ニ付幸ニシテ各位閣下ニ  
於テモ亦同感ヲ懷カセラルルナラハ其ノ意  
味ノ下ニ書記官長ノ審査報告ニ對シ全會一  
致ヲ以テ贊成セラレ且御諮詢ノ各案ニ付テ  
ハ讀會ヲ省略シテ直ニ採決ノ手順ヲ執リレ  
ムコトヲ切望ス

二十番(九鬼) 同意

五番(原) 唯今伊東顧問官ノ御演說ニ對シ特ニ  
反對又ハ同意スル次第ニ非サルモ一應提案  
ノ理由ヲ申述フヘシ今回各省勅任叅事官ノ  
定員ヲ増加スル為本院ノ御諮詢ヲ仰キタル  
ハ伊東顧問官ノ言說ノ通り先般各省官制通

則改正案審査ノ際其ノ報告中ニ将来各省官制ノ改正ニ付テモ参事官書記官ノ定負ノ増減ノ如キハ當院ニ御諮詢方奏請スヘキ旨ノ御希望アリ是レ畢竟各省官制通則中参事官書記官ノ定負ニ關スル規定ヲ削除シタルノ當然ノ結果ニシテ尤ノ次第ト考ヘ賛成ノ意ヲ表シタリ将来各省官制ノ改正ハ悉ク本院ニ御諮詢相成ルト云フ譯ニハ行カサルモ右御希望ノ點ハ既ニ當局ニ於テモ同意ヲ表シタル所ニシテ将来之ヲ實行スル積ナリ

次ニ勅任参事官ノ點ニ付一言セムニ當時原案ニ於テハ参事官ハ總テ自由任用ノ官ト為スノ趣旨ナリシニ本院ノ審査委員會ハ之ヲ以テ穩當ナラスト為シ特ニ勅任参事官ニ限リ此ノ趣旨ヲ認ムルコトニ修正セラレタリ勅任参事官ノミニ付自由任用ヲ許ストキハ各省中ニハ参事官ノ定負一人ニ止マルモノアリ如何ニシテモ増負ノ必要ヲ感シタリ又従前ノ沿革ニ考フルモ参事官ノ定負一人ヲ復活スルコト當然ナルカ故ニ最近ノ議會ニ



於テ其ノ經費豫算ヲ要求シ其ノ通過ヲ待テ  
テ本案ヲ立案シタル次第ナリ當時ノ沿革右  
ノ如シ其ノ事情ヲ明ニシ置カムコトヲ希望  
ス

十六番伊東 唯今原總理大臣ノ演説ニ對シ敢  
テ反對ヲ試ミルニ非サルモ將來ノ誤解ヲ防  
ク為一應早見ヲ申述フヘシ

各省官制改正案ニ付テハ各省官制通則中叅  
事官書記官ノ定員ニ關スル條項カ削除セラ  
レタルニ付其ノ點丈々將來本院ニ御諮詢相

成ル様取計ハルヘキ意味合ナルカ如キモ之

ニ付テハ先般審査報告中ニ明記シアル通り

ニシテ先刻自分カ申述ヘタル所ハ決ニテ新

ニ文字ヲ作リタルニ非ス即チ各省官制改正

案中局ノ設置廢止叅事官及書記官定員ノ増

減其ノ他重要ト認ムヘキ事項ニ關スル規定

ノ變更ニ係ルモノハ今後本院ニ御諮詢相成

ル様奏請スヘキ旨内閣ヨリ言明アリタル趣

明白ニ記載アリ是レ當時協議調ヒタル文言

ナリ若シ總理大臣ノ説明カ右報告ノ文字ノ

範圍ヲ限局スルノ意味ナラハ前ニ自分ノ陳述シタル所ハ改メテ言ヒタルモノニ非サルコトヲ言明シテ總理大臣ノ注意ヲ惹カムト欲ス

五番(原) 伊東顧問官ニ對シテ議論スルニ非サルカ余モ亦全然同一ノ趣旨ナリ叅事官書記官ノ増減其ノ他重要ナル事項トアリ即チ重要ト認ムヘキ事項ハ本院ニ御諮詢相成ルコト當然ナリト考フ元來政府ハ毛頭樞密院ト權限ヲ争フノ意味ナク唯事理ヲ明ニシテ兩

者ノ間諸事圓滿ニ進行スルコト國家ノ爲ニ喜フヘキコトナリト考フ仍チ先般權限論ヲ固執スルコトナク直ニ當院ノ希望事項ニ同意ヲ表シ今回其ノ諒解ニ基キテ本案ヲ提出シタル次第ナリ

二十二番(末松) 余ハ伊東顧問官ノ發議ニ同意ス惟フニ本案ハ單ニ各省叅事官ノ増員ノミニ山マラス内務農商務陸軍ノ三省ニ付テハ他ノ問題ヲ包含ス何レモ重要ノ事項ナルカ故ニ何レニシテモ本院ニ御諮詢相成ルコト

當然ナリト考フ本官窻ニ既往ヲ顧ミルニ今  
回労働問題ニ付内務農商務ノ二省官制ニ改  
正ヲ加ヘムトスル新條項ハ多少具體的ニ過  
キサルカノ感ナキコト能ハス既往數年間ニ  
互リ労働問題ニ對スル政府當局ノ態度ヲ見  
ルニ國際關係ニ於テモ又對内關係ニ於テモ  
多少冷靜ヲ缺キ世上ノ風潮ニ伴ヒ過キタル  
ノ嫌ナシトセサルナリ之カ為却テ世間ノ氣  
勢ヲ增長セシメタルノ形跡アリ既ニ對外事  
項ニ於テ我國ノ採リタル所ハ他國ニ以シテ

餘程進ニ過キタルノ感アリ今回内務省官制  
ノ改正ニ付テモ失業ノ救濟防止ト云フカ如  
キハ餘リ直接ニ言ヒ過キタルモノニハ非サ  
ルカ本官ハ此等ノ事項ヲ規定スル場合ニ於  
テモ今少シク包括的ニ立言スル方可ナリト  
真ニ感スル次第ナリ即チ改正ノ條項ニハ全  
然敬服スト言フ譯ニハ行カサルナリ乍去既  
ニ當局ニ於テ斯ノ如ク立案セラレタルニ對  
シ右等細目ヲ論議シテ議事ノ進行ヲ妨害ス  
ルノ意思アルニ非ス畢竟内閣カ責任ヲ取テ

為サレル所ニ從ヒ行ク次第ニシテ強テ之ニ  
反對スル趣旨ニ非ス唯一應見ヲ申述ヘタ  
ルノミ各案ニ付テハ今日此ノ儘可決セラレ  
然ルヘシト考フ字句其ノ他ニ付一々論及ス  
ルヲ要セス伊東顧問官發議ノ通り讀會ヲ省  
略シテ直ニ可決セラレムコトヲ希望ス  
議長(清浦) 既ニ議論盡キタルモノト認ム又伊  
東顧問官ノ發議ニ對シ賛成アリタルニ付讀  
會ヲ省略シテ直ニ採決スヘシ本案賛成ノ諸  
君ノ起立ヲ請フ

○  
全會一致可決

議長(清浦) 次ニ外交及軍事ニ關スル報告アリ  
五番(原) 今日御集會ノ機會ニ於テ外交及軍事  
ニ關シ大體ノ情況ヲ報告セムト欲ス  
我カ國カ西以利亞ニ出兵シタル當時ハ歐洲  
戰亂ノ最中ニシテ其ノ趣旨ハ當時聲明シタ  
ル通り千エックスローヴァツクノ救援及獨逸俘虜ノ  
掃蕩ニ在リシナリ其ノ後千エックス人民ハ漸次  
其ノ本國ニ歸還スルコトト為リ當初出兵ノ

目的ヲ達成スルコトヲ得タリ茲ニ於テ必要  
ナラサル地點ヨリ撤兵スルコト當然ナリト  
考ヘ現ニチタ方面ニ於テ我カ軍隊ヲ撤退シ  
タリ乍去我國ハ西以利亞ト接壤シ彼ノ過激  
思想傳播ノ虞少カラス加フルニ不逞鮮人ノ  
其ノ間ニ徘徊スルモノアルカ故ニチタク救  
援ノ目的ハ成就シタリトテ直ニ悉ク撤兵ス  
ルコトヲ得ス仍テチタ方面ノ撤兵ト同時ニ  
浦潮方面ニ駐兵シ尚ハバロフスクハ尼港ニ  
對シ要衝ノ地ニ當ルカ故ニ同地ニ多少ノ軍

隊ヲ駐屯セシメタリ

尼港事件ハ誠ニ悲慘ナル出来事ニシテ如何  
ニモ遺憾ニ堪ヘサル次第ナルカ何分ニモ目  
下ノ所交渉ノ相手方タルヘキ政府ナキカ故  
ニ如何トモスルコト能ハス差當リ我國ノ適  
當ト認ムル處置ヲ取ルノ外ナク即チチカレ  
ニ州ノ適當ナル地點ヲ占領シ其ノ地ニ相當  
ノ兵力ヲ駐屯セシメテ十分ナル對敵手段ヲ  
講シ以テ他日時機ノ到来ニ備フルコト肝要  
ナリト認メ既ニ夫々其ノ處置ヲ實行シ大體

一段落付キタルニ付此ノ際右等ノ情況ヲ本院各位ニ御報告申上クル次第ナリ尚詳細ハ當局大臣ヨリ陳述スル所アルヘシ  
九番(田中) (先ツ芳賀陸軍砲兵少佐ヲシテ東部西比利亞ノ地圖ニ就キ説明ヲ為サシメ次ニ席上各顧問官ニ配付シタル「尼港事件ノ顛末」ニ港三月事變之顛末ヲ布衍シ之ニ最近極東三州ニ於ケル政情並ニ我カ軍事行動ヲ附加シテ説明シタリ)

七番(内田) 尼港事件ニ關スル外交上ノ交渉ハ

七月三日官報號外ヲ以テ公表シタル帝國政府ノ聲明ヲ基トシテ之ヲ開始シタリ此ノ聲明ハ本件ニ付帝國政府ノ採ルヘキ態度ヲ明ニシタルモノニシテ當時英米佛伊ノ四大國政府ニ對シ我カ駐在使臣ヲ以テ之ヲ通告シタリ此ノ通告ニ對シテ更ニ意見ノ申越アリタルハ米國ニシテ之ニ關聯シテ英國ヨリ一應ノ忠告的意見ヲ申越シタリ他ノ二國ニ於テハ單ニ通告接受ノ挨拶アリタルニ止マル  
七月三日ノ聲明通告當時米國ニテハ國務卿

親港方面ニ旅行中ナリシヲ以テ帝國大使ハ  
國務卿代理者ニ對シテ右聲明通告ノ手續ヲ  
為シタルニ國務卿代理者ノ意見トシテ今回  
大戦終結以來苟クモ他國ノ領土ヲ侵犯スル  
コトハ主義トシテ米國政府ノ承認セサル所  
ニシテ今日日本カ「サカレン」州必要ノ地點ノ  
占領カ遂ニ永久ノ占領ト為ルコトナキヤハ  
米國ノ窺ニ掛念スル所ナリトノ旨申述ヘタ  
ルニ付帝國大使ハ之ニ對シテ相當ノ説明ヲ  
與ヘ置キタリ然ルニ七月十六日ニ至リ國務

卿ヨリ帝國大使ニ對シ半公信ヲ以テ申越ア  
リ其ノ文書左ノ如シ(朗讀)  
右ノ文書ニ付帝國政府ニ於テハ熟慮ヲ加ヘ  
タル結果本月上旬左ノ文書ヲ以テ回答スル  
様帝國大使ニ訓電ヲ發シタリ(朗讀)  
右ハ本月十三日帝國大使ヨリ國務卿ニ提出  
シタル趣ヲ以テ其ノ次第左ノ通り大使ヨリ  
報告アリタリ(朗讀)

之ニ對シテ更ニ米國政府ヨリ何等カノ申出  
アルカ否カハ姑ク今後ノ成行ニ徴スルノ外

ナシ

米國政府ハ其ノ意向ヲ英國政府ニ通シタル  
結果先般英國外務次官ハ我カ珍田大使ニ面  
會ヲ求メ英國政府ニ於テハ別ニ猜疑ノ念ヲ  
有スルコトナキモ米國政府ニ於テハ若干掛  
念ヲ抱キ居ル趣ニ付可然説明アラムコトヲ  
希望スル旨申出アリタリ之ニ對シ珍田大使  
ハ本問題ハ重要案件ニシテ將來ノ發展ニ待  
ツノ外ナク豫メ條件ヲ具シテ協定スヘキ性  
質ノモノニ非スト回答ニ置キタリ

乍序支那ノ狀況ニ付一言セムニ南北ノ政争  
ハ各位御承知ノ通りナルカ現ニ我カ公使館  
ニ於テ安徽派ノ元兇九人ヲ保護シツツアル  
コト一部攻撃ノ種因ト為リ居ルモ是ハ人道  
上將夕國際慣例上當然ノ措置ニシテ我ニ於  
テハ之ヲ續行スルノ外ナキナリ此ノ問題ニ  
付テハ始メ北京ノ使臣會議ニ於テ今回争亂  
ノ結果政治犯人ノ各國公使館ニ遁入スルモ  
ノアルモ一切之ヲ保護セサルコトトスヘシ  
トノ提議アリ此ノ提議ノ發案者ハ表面英國



公使ナリシモ内實米國公使ナリシカ如シ右  
提議發案ノ際我カ小幡公使ハ斯ノ如キ事項  
ヲ公使會議ノ決定ト為スコトハ極メテ重大  
ナル關係アリ自分ハ之ニ對シテ可否ノ意見  
ヲ申述フルコトヲ得スト強ク主張シタルニ  
英米公使ハ別ニ駁論ヲ試ミルコトナク此ノ  
提議ハ自然其ノ儘ト為リタリ其ノ後英佛米  
ノ公使ハ自國人ニ對シ政治犯人ヲ保護セサ  
ル旨ヲ布達シタリ我カ公使館ニ於テハ現ニ  
九人ノ者ヲ保護シツツアルニ付一部ニハ之

ヲ利用シテ日本ハ豫メ安徽派ト結托セリナ  
ト言ヒ觸テス者アリ斯ノ如ク我カ態度ヲ故  
意ニ曲解シテ為ニセムトスル者アルハ致方  
ナシ我ニ於テハ右政治犯人保護ノ事實ヲ明  
ニ支那政府及北京公使團ニ通知シ何等隱蔽  
スル所ナク今日ニ於テハ英米公使トモ我カ  
態度ヲ是認スルニ至レリ  
議長(清浦) 別ニ御質問モナキニ付今日ハ之ニ  
テ散會ス

(午後一時閉會)

副議長子爵清浦奎吾  
書記官長二上兵治  
書記官

入江貫一  
村上恭一

勅令第 號

外務省官制中左ノ通改正ス

第三條中專任叅事官ハ二人ヲ專任叅事官ハ三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條中賑恤救濟及ヲ及賑恤救濟其ノ他社會

事業並ニ改ム

第三條中三人ヲ四人ニ八人ヲ九人ニ改ム

第四條中五局ヲ六局ニ改メ地方局ノ次ニ社會局ヲ加フ

第五條第六號及第七號ヲ削リ第八號ヲ第五號第九號ヲ第六號トス

第五條ノ二 社會局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 賑恤及救濟ニ關スル事項

二 軍事救護ニ關スル事項

三 失業ノ救濟及防止ニ關スル事項

四 兒童保護ニ關スル事項

五 其ノ他社會事業ニ關スル事項

第九條ノ二 内務省ニ專任内務事務官二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ社會局ノ事務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

大藏省官制中左ノ通改ニス

第二條中「人ヲ二人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

陸軍省官制中左ノ通改正ス

第一條ノ二ヲ削ル

第九條第九號中「陸軍中央幼年學校及陸軍地方

幼年學校」ヲ及「陸軍幼年學校」ニ改ム

第十二條中「陸軍砲兵工科學校」ヲ「陸軍工科學校

ニ改ム

第十三條中「對島警備隊司令部」ヲ削リ「陸地測量

部」下ニ「陸軍工兵學校」ヲ加フ

第十三條ノ二ニ左ノ一號ヲ加フ  
五 航空局ニ關スル事項

附表中「參政官」ノ項及「副參政官」ノ項ヲ削リ同表

「參事官」ノ項中「一」ヲ「二」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

海軍省官制中左ノ通改正ス

第二條 削除

別表中参政官ノ項及副参政官ノ項ヲ削リ同表  
参事官ノ項中「一」ヲ「二」「三」同表中百九十四人ヲ百  
九十三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

司法省官制中左ノ通改正ス

第三條中七人ヲ八人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

文部省官制中左ノ通改正ス

第三條中二人ヲ三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

農商務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「工場法施行」ノ下ニ「勞働保險其ノ他勞

働者保護」ヲ加フ

第三條中「一人」ヲ「二人」ニ「十人」ヲ「十三人」ニ改ム

第六條ノ二中「工場法施行」ノ下ニ「勞働保險其ノ

他勞働者保護」ヲ加フ

第十二條ノ二中「工務局」ノ下ニ「工務局事務官

專任二人」ヲ加ヘ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ

加フ

工務局事務官ハ奏任トス勞働保險其ノ他勞

働者保護ニ關スル事務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

逋信省官制中左ノ通改正ス

第二條中「一人」ヲ「二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

